

講義名	哲学		
科目区分	教養科目		
担当教員	越後 圭一		
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 4時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2

主題と概要			
<p>哲学とは、世界や人間の存在の有り様や存在そのものについて「考える」ことで迫っていく学問です。常識や先人の教えを参考にしつつも、それらにとらわれず、じぶんの頭で「○○とは何か？」と考えていくことが良い生き方につながると哲学は考えます。とはいえ、やはり先人の教えを知ることが大事です。この講座では、おもに近世哲学の代表的な思想を紹介することで、じぶんの頭で考えるためのヒントにしたいと思います。</p>			

到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・知への興味や関心を引き出し、物事を深く考えるための知的基盤形成を促す教養をつけること。 ・物事の本質を原理的に思考するヨーロッパ近世哲学の特徴をつかむこと。 			

提出課題			
【4/15修正】			
「小レポート」			
→ 毎週火曜日に RYUKA Portal より配信するテキストをダウンロードし、読む。そして「小レポート」を提出。（最低400字程度のもの） → テキストダウンロード期限および小レポート提出の期限は、講義日より一週間以内（次の講義日になるまで）とします。			
※後日の過去テキスト配信はしませんので注意してください。ダウンロードは必ず毎週してください。			
学期末の小レポートや試験は予定していません。			
以上 詳細については配信テキスト内にて説明します。			

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
【4/12修正】			
毎回の課題提出で寄せられた質問等について、テキスト内にて解説します。			

評価の基準			
【4/15修正】			
新型コロナウイルスの流行に対する大学の方針にしたがい、授業はすべて RYUKA Portal を使った「課題学習型授業」の形式でおこないます。			
① 受講生には毎週配信するテキストを読んでもらう。			
② その回の内容要約や感想、ごく簡単な小問題の解答などを、RYUKA Portal の「レポート」機能を使って提出してもらう（おおむね400字程度のもの）。文章を書き込むファイルもいっしょに配信するのでダウンロードして記入し、送信してください。			
詳細はテキストにて説明します。			
以上の課題提出をもって、「授業への参加度」とみなし採点します。			
③ 学期末の試験やレポート試験は実施しません。上記課題のみにて採点評価します。			

履修にあたっての注意・助言他			
<p>哲学というと難しいイメージがあるかもしれませんが、この授業では近世哲学全体の特徴をつかみやすいように各思想家について深く踏み込まずにかんたんに概説するつもりですので、気軽に受講していただければと思います。</p>			

教科書

プリント資料及び参考文献
【4/12修正】
参考文献等は配信テキスト内で紹介する予定です。

授業計画
<p>第1回： ガイダンス 第2回： 近世哲学の特徴Ⅰ 中世から近世へ 第3回： 近世哲学の特徴Ⅱ ルネサンス、宗教改革 第4回： 近世哲学の特徴Ⅲ 科学革命 第5回： 合理論Ⅰ デカルトの方法論 第6回： 合理論Ⅰ デカルトの心身二元論 第7回： 合理論Ⅱ スピノザの方法論 第8回： 合理論Ⅱ スピノザの汎神論 第9回： 合理論Ⅲ ライブニッツの方法論 第10回： 合理論Ⅲ ライブニッツの身体論 第11回： 総論Ⅰ ロック 第12回： 総論Ⅱ パークリ 第13回： 総論Ⅲ ヒューム 第14回： カントの批判哲学Ⅰ 純粹理性批判 第15回： カントの批判哲学Ⅱ 実践理性批判</p>

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
ア：PBL（課題解決型学習）	
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
ウ：ディスカッション、ディベート	
エ：グループワーク	
オ：プレゼンテーション	
カ：実習、フィールドワーク	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
【4/12修正】	
毎回の授業（課題配信）にとりくむにあたり、それまで配信したテキストを復習し、思想の大きな流れやキーワードを把握しておくとう理解しやすいと思います。	

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考
【4/15修正】
今後の状況みて、教室での授業へ移行するとなった場合には、課題内容を変更する場合があります。